

会 議 録		令和7年2月10日作成	令和10年3月末日廃棄
会議名	京都府川端警察署協議会（令和6年度第3回）		
開催日	令和7年2月6日（木曜日）		
時 間	午後3時から午後4時33分までの間（93分）		
場 所	京都府川端警察署 道場		
出席者	今村会長、今江副会長、太田委員、二之部委員、船木委員、古川委員 （欠席 金丸委員） 計6人		
	在田京都府公安委員長		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 交通課長、警備課長、広聴相談係長 計10人		
諮 問 事 項	1 昨今の暴力団情勢について 2 極左暴力集団の現状について		
会 議 内 容	<p>1 会長挨拶 司会 副署長</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>3 協議 司会 副会長</p> <p>前回の協議会での委員からの要望意見に対する回答～交通課長</p> <p>【警察】委員から、丸太町通での日本人向けの乱横断禁止対策の強化についての要望を受けた。</p> <p>当署管内には、横断禁止の道路があり、それぞれ標識により禁止を標示している。委員から、小さくて見にくいと指摘を受けた標識については、歩行者等横断禁止を示すものである。</p> <p>以前、外国人向けの英語表記の横断幕を設置したことについては、近くにホテルがあり、かつ外国人利用者が多いという特異な状況に基づいて設置したものである。</p> <p>通常の横断禁止場所では、各個特別に横断幕等を設置せず、規制標識に従ってもらふことになる。今回は日本人向けの横断幕等の設置要望であるが、日本人向けであれば、通常の場合と同様、禁止標識の設置で足りるものと考えられる。</p> <p>なお、乱横断に起因する歩行者事故の防止に向け、平素からあらゆる機会を通じて広報啓発を実施しており、今後も本要望を踏まえて継続実施する。</p>		

会 議
内 容

【委員】外国人向けの横断幕は、乱横断の対策として地域でも非常に好評である。日本人の乱横断は付近の郵便局の場所でも多く見られるので、引き続き、対策をお願いしたい。

(1) 諮問事項説明

昨今の暴力団情勢について～刑事課長

【委員】数年前に、京都で男子大学生が女子大学生を飲食店に誘引し、不相応な借財を背負わされ、その返済に風俗店での稼働をあっせんされたという事件があった。

今日の説明で暴力団は半グレ等と密接な関係性を有していると説明を受けたが、この事件の犯人の男子大学生らも暴力団との接点があったのか。

【警察】直接事件の捜査に関与しておらず、正確なことは分からないが、その可能性は排除できないと思う。

【委員】この事件の筋書を書いた者が上部組織にいるのか。いち学生の立場で筋書を書けたとは到底思えない。

【警察】その当時では、事件の背景までは不鮮明だったものでも、今の時点で改めて分析すると、暴力団組織とのつながりが見えてくることもある。

暴力団組織では、様々な犯罪による収益を資金源にしていることが多い。

警察では、部門を超えて、端緒情報からの積極的な事件化等反社会的集団の実態解明と組織壊滅に向けて活動している。

(2) 諮問事項説明

極左暴力集団の現状について～警備課長

【委員】左京区には数多くの大学がある。京都大学以外にも、学生運動が実施されている大学はあるのか。

【警察】ほかの大学においても、極左暴力集団による活動が確認されている。

【委員】私は学生運動が盛んな頃、ほかの大学の学生だったが、私の母校で学生運動をしていた者は、母校の学生ではない、他大学の学生が多かった。京都大学の学生寮は今でも活動拠点として有名だが、他大学の極左学生がこの学生寮で生活し、一緒に活動しているのか。

当時は、極左学生でも母校の名を汚すようなことはしないという傾向があった。今でもその考えを持っているのか。

【警察】京都大学を拠点としている活動家には、京都大学に学籍を持つ者がいると承知している。

(3) その他

【委員】最近、総務省や厚労省をかたり、間もなく電話が使えなくなるとの留守電が入っていることがある。特殊詐欺の予兆電話と認識しており、相手方へは自発的に電話はしないが、このような場合でも警察に知らせた方が良いのか。

【警察】この種の電話はアポ電として警察で把握分析し、防犯メール等を用いて被害の拡大防止に活用している。

【委員】警察に情報提供する場合、どの課に言えば良いのか。

【警察】アポ電情報は警察署の関係各課で共有される。通報は最寄りの交番や、警

察署の刑事課でもどこでも受け付ける。

【委員】特殊詐欺の予兆電話が音声ガイダンス化されており、何番を押してくださいと要求されることがある。これにも応答しない方が良いのか。

【警察】特殊詐欺の犯人は、あらゆる手口を作り出して相手方をだまそうとする。音声ガイダンスの利用もその一つであり、十分注意していただきたい。

【委員】東大路通の丸太町通と今出川通の間で、2分半に1台の割合で無灯火自転車が通行しているとのネット記事が掲載されていた。

【警察】この記事は、記者が百万遍から東一条までの間の東大路通の交通実態を実際に調査して記事化したものである。

最近の自転車はハブ内に発電機が内蔵されており、自動的に点灯するようになっている。京都大学の学生には、代々の先輩から自転車を受け継ぎ使用する学生がおり、その自転車は最新式の自動点灯型ではなく、旧式の手動点灯型である場合が多く、これが無灯火自転車の多い一因でもある。

当署は、この場所で取締りや啓発を強化している。

4 退任委員からの挨拶

【委員】警察署協議会は、地域が抱える問題点に関し、意見を出し合い解決に向けて具体的な取組みを進める、非常に有意義で面白い会議であった。

二輪販売業者として、いかにして盗難対策や交通マナーの向上を図るかは重要な課題として認識していたが、販売店だけではできることに限りがあった。

そこで、本協議会でこの意見を出した結果、警察署が主体となって警察官やボランティア団体と連携した啓発活動を企画実施し、業者としても攻めの活動ができたと思っている。

この種の取組は継続が重要だと考える。委員は退任となるが、今後はいち事業者として協力は惜しまない。

【委員】私は消防分団員としても活動している。警察署協議会で、消防団の夜回りに警察官との連携を申し出たところ、積極的に協働活動してくれるようになった。警察官の姿勢は、消防分団員をはじめ地域住民にも浸透し、皆が感謝しありがたく思っている。

警察署と地域住民との良好な関係を今後とも継続してほしい。

【委員】職場の近所のスーパーマーケットで、「川端警察署からのお願いです。」から始まり、自転車での逆行をしないように呼び掛ける館内放送が流れていた。このように反復し交通安全を呼び掛けることは非常に効果的である。「継続は力なり」を体現し、効果的な活動を進めてほしい。

5 事務連絡

令和7年度第1回の警察署協議会は6月中の開催予定である。

以上

第3回京都府川端警察署協議会の開催状況

